

2015年3月14日(土)、なかもちテラスが開館した。まずは、斬新なデザインや内部の設計に目が向くが、同館の大きな特徴は、運営への「市民参加」「市民協働」である。協働の一翼を担う市民参加の組織「なかもちテラスLINKS<sup>\*</sup>」について知りたいと考え、なかもちテラスまつりが終わってほっと一息の公民館長、図書館長を取材した。

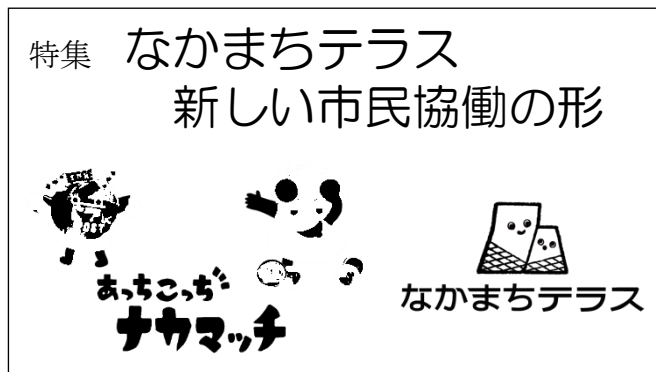
### コンセプトは市民協働

なかもちテラスは公民館と図書館の複合施設であり、そのコンセプトは「人と情報の出会いの場」。双方の機能の相乗効果を狙い、「市民の交流の場の設置や、地域の集会機能を持たせるなど、より多様な市民が集い、多機能感やゆったり感のある施設づくりを目指す」とされている。キーワードである「市民の交流の場」「地域の集会所機能」を実現するために、公民館・図書館が仕掛けたのが、

「なかもちテラスLINKSプロジェクト」。その第1弾が「なかもちテラスの未来づくりワークショップ」である。開館に向けて、公民館、図書館の機能はもちろんのこと、学校と

地域、子育て世代、産業とのかかわり、若者の新しい発想など、さまざまな新しい切り口を設定。そこに参加してきた人たちは、利用者懇談会等、従来の利用者団体にとどまらず、この地域を中心に、

「暮らし」「通学し」「店を経営し」・・・といった多くの市民たちである。その後、このワークショップは、「なかもちテラス未来づくり実行委員会」へと発展



し、2015年3月の旧仲町公民館閉館となかもちテラス開館イベント、そして5月のなかもちテラスまつりの中心を担うに至った。武蔵野美術大学や津田塾大学の学生たちがそ

こに参加したことも新しい試みと言えるだろう。実行委員会を取り組んだのは、①それぞれの立場の活用方法・雰囲気づくり、②なかもちテラスのPR、③閉館関連イベント・開館関連イベント、④開館後事業の企画・実施づくり、⑤カフェの有効活用、⑥なかもちテラスの横のつながりづくり、などである。

開館イベントもまつりも

「市民力全開」で成功をおさめた。『なかもちテラスだよりのコミュニティカレンダー』は、学校や保育園・幼稚園等々の地域情報を盛り込んだ、仲町の地域情報紙ともなっており、この7月に10号が発行された。

### 今後へ向けて

6月30日には、なかもちLINKSの全体会が行われ、今後についての話し合いがもたれた。約30名の参加があり、「今後の活動方針(案)」を巡ってかなりつつこんだ意見交換があったようだ。公共施設の運営に市民目を活かし参加するということは、はじめての試みゆえに、今後についてはさまざま課題が出てくるように思う。しかし、それもまた、市民参加・市民協働にとって必要な過程と考えれば、おさまりよくスムーズに進んでいくよりむしろ望ましい姿ではないかと思えるのだ。

華々しいイベントを終え、

一段落ついたなかもちテラスLINKSは、今後、どのような形で発展していくのだろうか。多様な市民が集まったことによる相乗効果と、粘り強い熟議をぜひ期待したい。

取材のなかで、カフェについて、上田図書館長が、「カフェでゆっくりされる方が増えています。運営を担う『あさやけ第二作業所』も、障がい者自身もつと店にかかわり、地域と自然に交わっていけることを目指しているとのこと。市民参加を目指すなかもちテラスとして、よかったと思うことの一つです」のひとことが印象的だった。(文責 伊藤)

※なかもちテラスLINKS: L(Library)＝図書館、i(i)＝私、N(Nakamachi)＝仲町、K(Kominkan)＝公民館、S(School)＝学校の頭文字